

■町指定

種 別	名 称	所在地	所有者・管理者	指定年月日	概 要
考古資料	宝篋印塔	木岐	真福寺	S32. 5. 8	木岐真福寺の東側に山ぎわにある県下でも代表的な古石塔である。宝篋印塔はお経を納める塔のことですが、わが国では塔の形式として供養塔あるいはお墓として用いられる。鎌倉時代の作とみられ、石質は河内二上山産出の凝灰岩でできている。この石塔を地元では「ヨリマサさん」と呼ぶ。
考古資料	貞治の碑	西の地	美波町教育委員会	S32. 5. 8	子安地藏さんの堂内に安置されている石碑。碑の中央に貞治六年六月二十四日の紀年銘、右下隅に延命地藏尊の浮彫りがある。貞治六年（1367年）は康安の大地震から6年目で震災供養のため造られたのかもしれない。
考古資料	康暦の碑	東由岐	美波町教育委員会	S32. 5. 8	この碑は高さ1.6m、幅70cm、厚さ10cmの砂岩の板石でできている。康暦の名は地震より19年目の「康暦二庚申霜月二十六日」の紀年銘が碑の下部に刻まれていることから康暦の碑と名づけられている。
名勝	田井の浜	田井	美波町教育委員会	S32. 5. 8	田井の浜（長さ：1.5km）の水の美しさは今もお県内有数を誇っており、夏のシーズン中は臨時の田井の浜駅が開設される。室戸阿南海岸国定公園に含まれており、阿波八景の一つでもある。
天然記念物	臥龍の松	西由岐	光願寺	S32. 5. 8	臥龍の松は、龍が地に伏す姿に似ているところからこの名がつけられている。樹齢は300年以上と推定され、昔は一つひとつの傘が17もあり威容を誇っていた。
有形民俗文化財	いただき籠	由岐ふれあいホール	美波町教育委員会	S32. 5. 8	いただき籠は頭上運搬、狭い地域や山坂での輸送において最良の方法であった。籠にたくさんの海産物を入れ紺の着物に黒の手甲、白の脚半と「いただきさん」独特のファッションで全国を旅して回った。
天然記念物	玉木神社の鳥居杉（2樹）	西河内	玉木神社・美波町教育委員会	S36. 4. 1	玉木神社には、境内の東側正面にある右の鳥居をはさんで、一対の大杉がある。高さ約30m、周囲は向って右のが目通りで5.1m左のが5.4もある。古木のため前者の上部は古欠し、後者の根本は腐食して洞穴ができている。
史跡	日和佐御陣屋跡土壁	奥河内字本村	美波町教育委員会	S36. 4. 1	文化4年（1807）、徳島藩は海陽町鞍浦に設けていた海部郡代所（鞍御陣屋と称した）を日和佐に移転した。日和佐御陣屋は1807年から明治にいたるまでの60年間、郡代（郡内の行政・警察・裁判を司る藩士）の指揮のもとに海部郡内の領民を支配する藩邸として存在した。御陣屋の位置は日和佐小学校校庭付近で、間口90m奥行き87m、周りは溝と練堀で囲まれていた。
無形民俗文化財	山河内の彦之進音頭と芸題踊り	山河内	山河内の彦之進音頭と芸題踊り保存委員会	S46. 4. 1	首題の期限は定かではないが、おそらく江戸時代後期からのもので、町内（奥河内、山河内、井ノ上、西河内、北河内など）に伝わってきた郷土芸能のひとつであると思われる。彦之進という名前の人が、浄瑠璃から取材して作詞作曲したものを、世間の人々が愛好し、それぞれの地域で踊りを振り付けたものだとされている。
天然記念物	越冬する厄除橋のイワツバメ	奥河内（厄除橋）	美波町教育委員会	S49. 7. 1	イワツバメはツバメかの承継の渡り鳥で、腰が白く、尾が短い。翼も短小で足に白い羽毛があり、群をつくって飛ぶ。五月頃に飛来し、9～10月に南方方向に去るのが普通である。日和佐では昔から、恵比寿洞の東側入り口の高い所に巣をつくっていた。昭和20年頃からは、日和佐公民館附近の民家の軒下にも巣をつくっていたことがある。もちろん越冬することはなかったが、昭和29年、現厄除け橋が出来てからは、越冬していることが確認できた。
考古資料	中田家板碑	由岐田井	個人所有	S56. 11. 26	高さ82cm、幅23cm、厚さ4.5cm、石質は緑泥片岩で典型的な阿波型板碑です。銘文は「為妙阿聖靈成仏 明德三・八月九日敬白」と刻まれている。明德三年（1392年）南北朝時代の北朝最後の年号である。
考古資料	九州型板碑	東由岐	個人所有	S58. 4. 26	九州型板碑とは大分県国東半島に分布する安山岩の板碑である。板碑とは板状の石で造った卒塔婆の意味である。鎌倉時代末期（1300年～1340年頃）の板碑で県内で発見されている九州型としては唯一の本格的なものといえる。

種 別	名 称	所在地	所有者・管理者	指定年月日	概 要
考古資料	有舌尖頭器	由岐ふれあいホール	美波町教育委員会	S58. 4. 26	昭和6年木岐徳竹の山中で発見された。石質はサヌカイトで長さ長さ8cmの矢じりで縄文初期、狩猟用として竹や木の先につけて使用したと考えられる。1万年ないし1万2千年前の石器である。
天然記念物	おがたまの樹林	阿部	個人所有	S58. 9. 8	モクレン科の常緑高木で本州中部以南の暖地に分布。昔、榊を神におまつりする以前は神の木として尊重された。
天然記念物	まるばちしゃの群生	阿部	光明寺	S61. 3. 3	むらさき科の落葉性小高木で暖帯南部から亜熱帯に分布。葉は長さ5～7cm、幅5～12cm、円形～広い楕円形で先は急に尖り、縁はのこぎりの歯状。旧「お水大師寺」の周辺約千㎡に広く群生している。
天然記念物	ハマボウの群生地	由岐田井	徳島県・個人	H1. 7. 6	田井塩田川の川尻に県下唯一の「ハマボウ」の群生地がある。アオイ科の落葉性低木で盛夏になれば淡黄色の花をつけ、秋にはその葉が見事の紅葉する。
考古資料	近江式宝篋印塔	阿部	個人所有	H1. 7. 6	石質は和泉砂岩、相輪は欠落していますが基礎、塔身などからみて80cmほどの小塔。基礎の全面に輪郭、その中に格狭間を線刻、その中に近江式開花蓮華の装飾文様を彫刻してある珍しい意匠の宝篋印塔。
考古資料	観音堂石仏	阿部	阿部町内会	H8. 3. 14	御本尊は縦34cm、横26cm、厚さ10cmの砂岩に2体の仏像を刻んである。与願印と合掌印を結んだ聖観音菩薩像で室町時代後期（1480年～1570年）の作と推定される。
考古資料	田井地藏庵本尊石仏	由岐田井	田井町内会	H8. 3. 14	田井地藏庵のご本尊として祀られている石仏で縦42cm、横23cm、厚さ10cmの砂岩に浮彫り状に刻まれ、眉・目・口・鼻・条帛などは特徴のある幅の太い線で彫られ、裾の広がり、台座の形態などから古い観音菩薩像と思われる。
考古資料	蒲生家五輪塔	木岐	個人所有	H8. 3. 14	蒲生家墓所にある中型五輪で地輪の正面に「弘治三暦 十三忌常光禪定門 大菩薩 七月十七日」と五行の銘文が刻まれている。弘治三年（1557年）は室町幕府13代義輝の時代。
有形文化財	恵比須人形（1体）	奥河内字本村	美波町教育委員会	H10. 4. 1	「恵比壽人形」は、初代天狗久の作です。天狗久の本名は吉岡久吉といい、安政五年（1858）徳島市国府生まれで16歳で人形家に弟子入りし、10年経て吉岡家の養子となり、明治2年「硝子目」を考案した。この恵比壽人形には「昭和三年天狗屋久吉作之」の銘があり、衣装やカシラの修復は大江巳之助氏によるものである。
有形文化財	青木家の板碑（2基）	赤松	個人所有	H10. 4. 1	この板碑は、栗作の青木家の裏庭にあり木造の立派な小祠の中に納められ、保存状態は極めてよい。2基あって、ともに全長64cm、幅17.5cm、厚さ2.5cm同形で、緑泥片岩で作られている。一つの碑は、中央に線刻で蓮華を挿した宝瓶を持つ聖観音立像が描かれ、そも左下に「明徳三年二月廿三日」、右下に「性榴門也」と刻まれている。他の一つは、錫杖を持った地藏菩薩像が描かれ、その左下に「明徳三年二月廿三日」、右下に「妙榴尼也」と刻まれている。
無形文化財	吹筒花火	赤松	赤松煙火保存会	H10. 10. 20	江戸時代から伝わる吹筒花火は約1mの竹筒に火薬を詰め込み竹筒の上方の穴から点火された火薬が吹き出し花火となって夜空に咲く。その高さは約15m。その姿は全く艶麗そのもので夜空に描かれた芸術作品である。赤松では秋の例大祭（毎年10月）に15地域の花火組が各1本を奉納して花火大会を催す。
有形文化財	人形頭（8個）	奥河内字弁才天	美波町教育委員会	H13. 9. 20	赤松には、明治時代に赤松座という「人形浄瑠璃」を演ずる一座があり、30あまり人形頭を所有していた。管理の問題もあり、平成三年二月十二日、日和佐町教育委員会に寄贈されたが、保存状態がきわめて悪く、頭、衣装などは破損している状態で、衣装は廃棄処分にした。この内、「人形富」「人形忠」「天狗久」などの八頭を修復、平成20年地元ボランティアにより衣装を手作りし人形6体を再現された。現在、忠愛所など主要な施設で展示されている。

種 別	名 称	所在地	所有者・管理者	指定年月日	概 要
有形文化財	真念の道しるべ（1基）	北河内	美波町教育委員会	H13. 9. 20	北河内本村一三九番地の道脇に立っているが元の位置より少し動いている。幅19cm、奥行き18cm、高さ60cm、四角柱で石材は花崗岩である。正面は「右大くわんみち願主信念」「左やくわう寺みち十丁余」、右側は「南無大師遍照金剛」、左側は「為父母六親阿州海部郡（以下不詳）」の刻印がある。大くわんみちは土佐街道を指す。かつては此处で道が分かれていたものであろう。右は、土佐街道であり、左は薬王寺に至る道であることを示す道案内である。
有形民俗文化財	石斧（1個）	赤松	個人所有	H13. 9. 20	長さ19cm、刃部の巾6cm、重さ500gの石斧である。刃部は蛤歯の形状になっていて、色は淡くみどり色を帯び透明性を保っていて全面を研磨した磨製石器である。素材は「ハイアロクラスタイト」であり、鑑定では弥生期の作であるという。
天然記念物	八幡神社の大楠（1株）	日和佐浦	日和佐八幡神社	H13. 10. 22	大浜公園にある日和佐八幡神社の境内には楠を中心に立派な社叢を作っている。八幡神社西入り口の道路の沿って二本の大楠が一株になっている。大きな方は周囲5.9m、高さ30m、小さい方は周囲5.2m高さ27mでかつて相生の楠と名づけられたことがあり、日和佐八幡神社の社叢では最大のものである。
天然記念物	薬王寺の大楠（2樹）	奥河内字寺前	薬王寺	H13. 12. 11	薬王寺は四国二十三番札所で参拝者が多い。その裏山の広い自然林は、薬王寺の風格を示している。その自然林を背景に本堂が立っているが、その本堂横の大師前に二本の大楠があり、それぞれ周囲が5.5m、5.9mで高さは各25mほどである。
有形文化財	薬王寺の仁王門の仁王像（2軀）	奥河内字寺前	薬王寺	H13. 12. 11	四国霊場二十三番札所の薬王寺は参拝者が多い。その参拝者はまず仁王門をくぐる。この仁王門の両脇後方に阿吽の呼吸よろしく仁王像が安置されている。この像は桧の寄木造りで像高は2m30cm。天保七年の（1836）の作で、作者は大仏師塩釜高運・康信となっている。明治17年に修復された記録があり、最近では平成12年に修復され、美しい姿を見せている。
無形民俗文化財	赤松神踊	赤松	赤松神踊保存会	H15. 2. 25	神踊とは神や仏の恩に感謝し五穀豊穡を祈願する踊りで年中行事として行われている伝統芸能である。「神踊は古風な歌詞を合唱し締太鼓ではやすだけで踊りはしない」（赤河内孫郷土史・笠井藍水 編）ただ、締太鼓を腰につけ右手を高く振り上げ打ち下ろす動作や、その反動で足が自然に前後に動く様が如何にも踊って見えることから太鼓踊とも言われている。
有形文化財	薬王寺の真言八祖像	奥河内字寺前	薬王寺	H27. 11. 27	安永三年に（1774）真言七祖像を、京都佛師である塩釜浄而が制作し弘法大師座像に追加された。明治期に牟岐中村の佛工 杉本宇三郎が修理した。
有形文化財	薬王寺の星曼荼羅（九曜星）	奥河内字寺前	薬王寺	H27. 11. 27	星宿関係の修法に使われる九曜を描いた曼荼羅である。上段は、土曜星、日曜星、月曜星、計都星、羅喉星が描かれ、下段は、木曜星、金曜星、火曜星、水曜星が表される。九曜をあらわした中世の仏画として貴重である。